

FIVキャリア猫に幸せを

もりねこお話会で啓発

獣医師の山手さんが解説

「キャリア猫も幸せに！FIVについてのお話会」が10日、特別認定NPO法人もりねこ(工藤幸枝理事長)の運営するタニコウクロノープキャットシェルター(盛岡市菜園)で開かれた。約20人が参加。猫エイズとも呼ばれるFIV(猫免疫不全ウイルス)の特徴や予防法、感染した猫(キャリア猫)を飼う際に気を付けるべきことなどを松岡動物病院院長の山手寛嗣さんが解説した。盛岡市におけるキャリア猫の扱いや譲渡状況について、盛岡市保健所獣医師の松館恵子さんが紹介した。



「FIVについてのお話会」で講話を行う松岡動物病院院長の山手さん

2014年から猫カールターを開設した。もりねこを運営している同法人は、17年1月12日に同じビルの5階にハンディを持つ猫たちのいる「キャリアールーム」は一般公開

しており、そつした猫に理解を深めてもらおうと、周年祭の機会にお話会を企画した。盛岡の外猫を検査すると、10頭のうちの4頭はFIVの陽性という。白血病も2割ほどで世界的に見ても高いという、山手さんは「猫を飼っている人たちの意識が低いということ。病気を広げない、病気の猫を増やさない」という意識を持つてほしい」と話す。

感染の原因は主に交尾とげんか、母子感染。FIVウイルスは一度かかると排出できない。山手さんは、感染を防ぎ感染を広げないためにも室内飼いを強く勧める。人への感染例はないが、ウイルスは変化する可能性もあ

るため、口移しなど濃厚な接触を避けることも指摘する。感染していても一生発症せずに天寿を全うする猫もあり、症状を出さないことが大切という。

いい食事を与えるーを挙げる。キャットタワーなど逃げ場所を作っておけると、ゆつくり寝られてストレスが少なくなる。普段の管理で、ストレス少なく楽しく暮らすのがこつ」と語る。キャリア猫は歯槽膿漏(のうろう)になると悪化しやすいため、えさを使って徐々に歯磨きに慣らす方法も紹介した。

松館さんは、盛岡市保健所ができた当初、FIVのキャリア猫はすぐに殺処分の対象となっていたと話す。愛護団体などの活動で市民意識も変化し、2年ほど前にキャリア猫も譲渡の対象に。

キャリア猫であつても飼いたいとの要望を受けて譲渡した2匹の実例を紹介し、「FIVであつても一緒に暮らしたいという人が増えているなど感じる。FIVであるなしかかかわらず、譲渡を進めていけたらと思つ」と話した。同シェルターでは、開設以来24匹ほどのキャリア猫を受け入れ、8匹が新しい家族へと譲渡された。工藤理事長は「FIVキャリア猫について正しい知識を持つてもらえたらと企画した。メリット、デメリットはあるが、理解した上でそれぞれの判断をしてもらいたい」と、理解の広がりを期待した。